

マーケットの動き（2020年8月17日～8月21日）

先週の米国国債市場は、先週末比で金利が低下しました（債券価格は上昇）。目新しい材料はなく、米国雇用統計をきっかけとした金利上昇をおおむね戻す展開となりました。27日のジャクソンホールで、FRB（米連邦準備制度理事会）パウエル議長から現行の緩和的な金融政策の長期化を示唆する発言が期待されていることもあり、買い戻しが優勢となりました。

ドイツ国債市場もおおむね米国と連動する推移となりました。

投資環境見通し（2020年8月）

長期金利は、米国、ドイツともに方向感に欠ける展開、欧州周辺国では上昇圧力が抑えられる

米国：長期金利は、財政拡張による国債増発、投資家のリスク回避姿勢の後退から、中期的には上昇方向とみています。ただし、足元では新型コロナウイルスの感染再拡大に対する懸念に加え、追加失業給付の縮小が予想されており消費の停滞・息切れに対する警戒感が残ることから、短期的には金利低下圧力が高まることも考えられます。当面は強弱材料交錯から方向感に欠ける展開を予想しています。

欧州（ドイツ）：ドイツ長期金利は米国と同様に方向感に欠けるとみられますが、周辺国についてはECBが量的緩和政策を続ける中、EUによる復興基金創設に関して合意されたことから、長期金利は短期的に上昇圧力が抑えられスプレッドは縮小に向かうと予想されます。

	8月21日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	0.63	▲0.07	0.03	▲0.84	▲0.95
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	496.09	▲0.20%	0.51%	1.68%	7.33%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

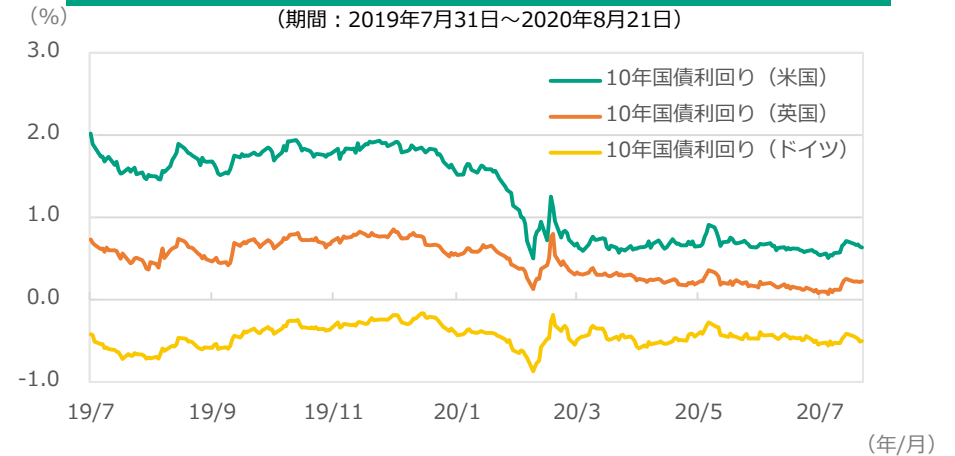
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202008_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2019年7月31日～2020年8月21日）



FTSE世界国債指数の推移

（期間：2019年7月31日～2020年8月21日）



※2019年7月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成